

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる/家庭学習の項目「1,3,4」	90%	84.1% 77.1% 62.7%	93.4% 85.6% 70.0%	C	・授業がよくわかる/家庭学習の2項目とも昨年度と比較して下回っている。 ・特に家庭学習については、昨年度の86.9%に対し今回は77.1%であり、大幅に下回っている。	・管理職からの指導や1人1授業研究での取り組みをもとに、日々の授業改善を行なっていく。 ・家庭学習の取り組みについて、研究部を中心に具体的な取り組み等を協議していき、方向性を考えていく。	○			・新型コロナウイルス感染症の影響を感じさせる結果と思う。学校の取り組みが今までほど徹底できる状況が難しい中で、生徒の気持ちに甘えが表に出てきているのではない。 ・改善方法の具体的な方策について、1人1研究授業、管理職からの見取り・指導、三原市教委が掲げている方針についての説明について確認した。
		ICT機器を積極的に活用した学習活動	○ICT機器を積極的に活用した学習活動	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	85.4%	94.9%	B	・ICT機器の項目は今回85.4%であり、昨年度から約9ポイント下回っている。	・授業だけでなく、家庭学習で使用したり、自学自習のためのツールとしてさらに活用するなど効率的に活用することで生徒に基礎学力をつける取り組みをしていく。	○			
		学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	○学習分析事業等による定着状況の把握と改善に向けた取組 ○総合的な学習の時間での生徒の主体的な学習の場の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6,7」	70%	84.4% 74.2%	120.6% 106.0%	A	・どの項目においても目標値を超え、おおむね高い数値であった。特に、「ピア学習やグループ学習では、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いたりして学習を深めています。」というアンケートに肯定的に答えた生徒の割合は84.4%であった。	・今後も研究部を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取り組みを進めていく。授業改善と探究的な学習の充実について研修を重ねていく。	○			
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	生徒指導・教育相談活動の推進	○生活四訓の徹底 ○デイリーの取組やいじめアンケートの実施による状況把握 OSC、SSWを含めた組織的な対応	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」  不登校の人数	80%	72.3%	90.4%	B	・あいさつについての肯定的な評価は72.3%であり、昨年度より約3ポイント下回っている。 ・不登校生徒数は昨年度より3名減少している。	・生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動を今後も生徒会と連携しながら進めていく。部活動全入ではなくなったため、他の取り組みについて検討を進めていく。 ・不登校に関して、各担任・SSW及びSC等と教育相談委員会等で連携をとりながら組織的な対応を継続して行なっていく。	○			・教室内の掃除が徹底されており、校舎内が全体的にきれいになっている。 ・二中の授業の様子、先生と生徒の間の雰囲気はほのぼのとしていてよい。 ・R80を軸にした振り返りについて、まだ具体的な取り組みが始まっておらず、よくわからないが、新しい工夫した取り組みについては評価できる。
		道徳教育の充実	○協動的な学び合いの場を仕組み議論する道徳の授業改善	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12,13」	90%	76.6% 83.8%	85.1% 93.1%	B	・道徳の授業が好きだと感じる生徒は76.6%である。 ・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は83.8%の生徒が感じている。	・授業改善に関わる校内全体での研修の充実を図る。 ・経年数数の少ない教員の参考となるよう、授業参観の機会を持ち、授業イメージを確立させる。	○			
		生徒会活動の充実	○生徒の主体的な場の設定や肯定的評価	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7、8」	90%	74.2% 76.0%	82.4% 84.4%	B	・授業のなかで、学んだことの振り返りをしている生徒が74.2%である。 ・76.0%の生徒が学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている。	・振り返りの方法について、R80を軸にした全教科共通の振り返りに取り組んでいる。	○			
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	効率的な業務改善の推進	○業務のスクラップ&ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業の設定と定時退校日の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	70.6%	78.4%	C	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに肯定的に答えた教職員の割合は70.6%であった。 ・水曜日を部活動休養日・定時退行日、5校時の日として取り組み、業務の都合により実行できない日もあるが、全職員が意識して業務にあたることができている。	・準衛生委員会で全職員に対し、業務改善に関するアンケートを実施し、現在回答を集約しているところである。実現可能なことから改善していく。 ・定時退校日に早く退校できるよう、日頃から意識して業務の計画を立てるようにする。	○			・業務のスクラップ&ビルドは二中だけの取り組みは難しく、市内全体の動向の方が影響が強いのではないかと。思い切ったパラダイムシフトをしないと、効果はあまり出ないと思います。 ・先生方の業務のゆとりが心のゆとりにつながって、子供達に対してゆとりある接し方になればよいと思う。
		長時間勤務の縮減	○学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底	在校時間50時間以内の者の割合	前年度比増	54.0%	78.6%	C	・勤務時間外の在校時間が50時間以内である者の割合は、6月間での150名中81名、54.0%であった。昨年度末は60時間以内の者の割合が68.7%であり、単純比較はできないものの、割合としては低い。 ・中核となる立場の職員が多くが転勤で入れ替わり、4月は混乱の中での業務のため、50時間以上が17名の超過勤務であったが、9月では9名に減ってきており、徐々に成果が表れてきている。	・現在、職員から業務改善に関するアンケートを取り終えたところである。今後、さらに改善を進めていけるよう、アンケートの結果をもとに取り組んでいく。 ・学校行事等、今年度取り組んだことについては、行事終了後すぐに要項等の修正を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで、先を見通した業務改善としていく。	○			

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分らない。